評価
A

確かな学力【すべての生徒が学びを実感できる授業づくり】

目　標

・授業で学びを実感できた生徒が 80%以上

取　組

4 月 22 日　　校内研究推進計画の共通理解

＜授業研究＞

・指導案検討会
（5 月 20 日・10 月 15 日）

・指導主事訪問授業研究会
① 6 月 10 日　前期　1A 理科
②11 月 11 日　後期　3A 数学

(1A 理科の授業)

（前期授業研究会）

(3A 数学の授業)

（後期授業研究会）

・ICT 校内研修　（学習アプリ、町 ICT 活用研修伝達など）
・道徳教育研修伝達講習会
・職員研修会「木曜カンファレンス」（年間）
（授業づくり、指導案相談会、模擬授業、学年・学級経営、生徒指導について）

評　価

A できた　B おおむねできた　C あまりできなかった　D できなかった

授業の中で学びを実感できた／すべての生徒が学びを実感できる授業づくり

生徒	A	67%	B	29%	C	4%	D	0%	肯定的回答率	97%
教員	A	36%	B	64%	C	0%	D	0%	肯定的回答率	100%

◎成果
・自分の意見を言ったり友達の意見を聞いて参考にしたりして、学びを実感している生徒が増えてきた。
・授業の振り返りに継続的に取り組んだことで、生徒が自分の学びをメタ認知できた。

▲課題
・学びを実感できていない生徒が一定数いること。
・学習課題に対する振り返りを次時の授業に十分にいかせていないこと。

※改善策
・今後も表現活動を通して、思考力・判断力を養っていく。
・単元や活動（教材）に応じた効果的な振り返りを工夫する。

確かな学力【家庭学習/読書習慣の確立】

評価 **B**

家庭学習 A/ 読書習慣 B

目　標

・自分に合った家庭学習を考え、計画的に取り組む生徒が80%以上
・日々の生活の中で読書に親しめた生徒が 80%以上

取　組

4 月 22 日　　校内研究推進計画の共通理解

＜家庭学習＞

１学期　各学年　学活の取組
（テスト週間の取組を考える、振り返り）
学習アプリの導入

２学期　各学年　学活の取組
（テスト計画表の見直し、振り返り）
（学習アプリの活用方法の紹介）
交流委員会の企画
（縦割り班での情報交換）

３学期　各学年　学活の取組
（1 年間の学習の振り返り）

通年　学習アプリの活用方法や家庭学習について、教員間での話し合い

＜読書習慣＞

１学期　全校ビブリオバトル実施

２学期　学年ブックトーク実施
クラス内ビブリオバトル実施
織田分館より出張図書館設置

通年　読書タイムの設定
おすすめ図書コーナー設置

〈校内ビブリオバトル〉

〈出張図書館〉

評　価

A できた　B おおむねできた　C あまりできなかった　D できなかった

進んで家庭学習に取り組む／家庭学習の確立のための取組										
生徒	A	38%	B	50%	C	12%	D	0%	肯定的回答率	88%
教員	A	64%	B	36%	C	0%	D	0%	肯定的回答率	100%
進んで読書に取り組む／読書の確立のための取組										
生徒	A	27%	B	37%	C	27%	D	9%	肯定的回答率	64%
教員	A	18%	B	64%	C	18%	D	0%	肯定的回答率	82%

成果

・自分にとって必要な課題を考えて、家庭学習に取り組む生徒が増えた。
・図書委員会を活用したり町立図書館の協力を得たりして、読書活動に親しむ場を設定できた。

▲課題

・家庭での学習スタイルを確立している生徒とそうでない生徒との差があること。
・学校での読書に関する取組を工夫しているが、日常的な読書習慣に十分にはつながっていないこと。
・担当委員会や担当教員だけの取組になりがちであったこと。（読書）

※改善策

・「家庭での時間の使い方や学習の仕方」を生徒間で共有することを継続していく。
・全校生徒と全教職員が共に読書習慣確立に向けて工夫する。

評価 **A**

豊かな心【自分で考え、決定し、行動できる力の育成】

目　標

・自分で物事を考え、決定し、行動することができたと感じる生徒が 90%以上

取　組

① 生徒主体の活動

・生徒会：学校の実態に合わせた委員会の改編と自主的な運営、長期休業前の集会の企画・運営

・学校･学年行事：体育祭での学年種目の構成、文化祭企画の運営、各学年行事の運営

・部活動：壮行会、部長会

② 生徒同士の思いや目標の共有

・学級会：学級・学年の課題や目指したい姿の共有

・学校祭テーマの募集：執行部の思いのもと全校から公募、テーマに込めた思いの共有

〈生徒総会〉

〈長期休業前の集会〉

〈学級会の実施〉

評　価

A できた　B おおむねできた　C あまりできなかった　D できなかった

自分で考え、決定し、行動する／目標や思いを共有し、活動に取り組む

生徒	A	63%	B	33%	C	3%	D	1%	肯定的回答率	96%
教員	A	68%	B	32%	C	0%	D	0%	肯定的回答率	100%

◎成果

・生徒自身の思いや目標を共有し、生徒主体で活動したことで達成感や充実感を感じ、生徒の肯定的回答率が 96%となり、目標を達成することができた。

・学校･学年行事や部活動など、学校生活全体において生徒一人一人に役割を持たせるといった、生徒が「考え、決定し、行動する」ための働きかけを行うことができた。

▲課題

・与えられた役割を果たすだけの現状に満足しており、より高いレベルを求めて自主的に行動できる生徒が見られないこと。

・目標の共有ではできたが、達成に向けて自分に何ができるか考え、積極的に行動する生徒が少数であること。

※改善策

・生徒と教職員との考えの統一を図り、より高い目標を決定し行動できるようにする。

・代表委員会や部長会などを通してリーダー育成に取り組む。

・成果（見栄え）を求めすぎないようにして、誰もが挑戦できるような安心感のある学校・学級風土作りに努める。

評価
A

豊かな心【安心感の醸成】

目　標

・安心して学校生活を送る生徒が 100%

取　組

安心できる学校生活のための活動

〇生徒の困り感把握、早期解決に向けた取組

・ＩＣＴを活用した相談窓口「先生あのね」の設置　　・生活アンケート（学期に２回）

・SC との連携：心の健康観察。授業観察。全員面談。個人面談（必要に応じて）

・担任による教育相談の実施。全員面談（学期に１回）・QU 検査の実施

・随時：「いじめ対策委員会」「生徒情報交換会」等で気がかりな生徒の把握

〇安心感のある学級経営のための取組

・生徒指導内容・指導基準の共有。統一した指導の徹底

・行事毎にありがとうメッセージの交換・掲示（学年、縦割り）

・定期的な三美活の振り返りの場の設定（集会時）

・月に１回ポジティブ教育実施（週案に明記）

〈ポジティブ教育（１年生)〉

〈三美活の振り返り（集会時)〉

〈「ありがとうメッセージ」掲示〉

評　価

生徒　A できた　B だいたいできた　C あまりできなかった　D できなかった

教職員　A できた　B おおむねできた　C あまりできなかった　D できなかった

安心して生活できた／安心感の醸成のための取組

生徒	A	73%	B	25%	C	1%	D	1%	肯定的回答率	98%
教員	A	82%	B	18%	C	0%	D	0%	肯定的回答率	100%

◎成果

・職員間で生徒指導に関する内容や基準を共有し、全職員で一致した生徒指導や三美活の継続的な啓発を行うことで、生徒は安心して学校生活を過ごすことができた。

・生徒情報交換会や SC との情報共有を行ったことで、気がかりな生徒に対して早期に対応することができた。

▲課題

・安心して生活できなかったと回答した生徒が数名いること。生活アンケートや「先生あのね」では不安感を発信できない生徒がいること。

・ポジティブ教育の実施内容が SST やピアサポートが中心になってしまったこと。

※改善策

・小規模校の利点を生かして、担任、教科担当、養護教諭、部活動顧問など、多くの視点で生徒の様子を細かく観察し、不安を抱える生徒（発信できない生徒）を早期発見できるようにする。

・ポジティブ教育では、生徒の実態に応じてレジリエンス教育も積極的に行っていく。また、教員自身がポジティブ教育について学び、よりよい実践に努める。

令和6年度　学校関係者評価書

織田中学校　学校関係者評価委員会

○…評価　※…提言

確かな学力	**＜学びがいのある授業づくり＞**
	○「授業で学びを実感できた生徒が80％以上」という目標に対し、達成率が、生徒 97％、教員 100％と、大きく目標をクリアしており素晴らしい。 ○生徒たちが自分の考えをもって意見を述べたり、友達の意見を聞き、それを参考にして自分の考えを再構築していることが読み取れた。このことが、達成感や更なる学びの意欲につながっていることが評価できる。 ※昔ながらの「やらせる教育」のほうが向上心を得やすい場合もあるのではないか。自主性に任せる場合とやらせる場合のバランスを臨機応変に使い分けていただきたい。 ※一定数いるという「学びを実感できていない生徒」へのサポートを、今後も引き続きお願いしたい。
	＜家庭学習・読書習慣の確立＞
	○学習アプリの導入により、生徒に学習への興味・関心を抱かせる環境が広がったのは素晴らしい。この取組を継続することで、今後も学力の向上が期待できる。 ○生徒目線でオススメの本を紹介し合うことは、普段あまり本を読まない生徒にとっても興味をもたせるきっかけになり、大変効果的なよい取組であると考える。 ○生徒の読書習慣の確立に向け、様々な方法で取り組んでいることがよくわかり、大変ありがたく思う。 ※学習アプリに対しては、もともと自分で学べる生徒にはやや物足りない、思考力の向上にあまりつながらない、記述問題が充実していないなどの意見がある。更なる使い方の工夫や指導が必要である。 ※家庭での学習スタイルが確立していない生徒には、教員からのフォローをお願いしたい。
豊かな心	**＜自分で考え、決定し、行動を起こす力の育成＞**
	○学校生活の中の様々な活動に対し、生徒一人一人に目標や役割をもたせ、協力して考え、決定し、行動する事を実践させる働きかけは、生徒の生きる力を育て、将来の選択肢を拡大させるためにとても重要で素晴らしい取組であると評価できる。 ※生徒会活動や学級活動、集会活動などを生徒自身が企画運営し、主体的に取り組むという風土が根付いてきているようである。今後もこの流れが途絶えることのないようお願いしたい。 ※個人の決められた役割をこなすだけの生徒も多いと聞いた。全体を見渡してリーダーシップの取れる生徒を育成できるようするのが課題である。
	＜安心感の醸成＞
	○様々な活動によって教職員・生徒間のコミュニケーションが活発となり、その結果として悩み事を把握し、安心して学べる環境構築に成功していることは評価できる。 ○生徒のメンタル面での安定・安心・安全について非常によく考えてくれていることに感謝する。そのお陰で、『先生あのね』などを通して「私生活・学校生活が不安」と相談がくることは、前年度数件あったのに対し、今年度は0件であった。 ※相談が少ないことに安心せず、それが「アンテナの低さ」に由来するものでないかを常に警戒しながら生徒を見守っていただきたい。 ※悩み事を相談できる環境が整ってはいるが、半面、言いたくても言えない心理になっていないか不安である。『目安箱』のように匿名で伝えられる環境もあった方がよい。また、生徒の悩んでいることが、他の生徒に漏れないようにプライバシーの保護には十分の配慮をお願いしたい。
その他	※わが子が、授業や家庭学習にうまく取り組めているかを心配している保護者の意見がある。この対応・対策については永遠の課題であると考えるので、今後も引き続き検討が必要である。生徒の主体性を重視する学校の活動に逆行することがあるかもしれないが、学力の底上げに期待をする。 ※教職員に負担がかかりすぎないように配慮をお願いしたい。